

# ワコンニュース

川崎市宮前区版 2024年7月19日掲載

## 報告 川崎市バス「間引きダイヤ」これでいいのか 市政 未来川崎市議会議員団 おだかつひさ



### おだかつひさ

1961年幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選、以降6期連続当選。第44代市議会副議長。  
好きな言葉「知行合一」、「嫌を避くる者は皆内足らざるなり」有馬在住

おだかつひさ

川崎市バスでは「鷺ヶ峰営業所」管内で運行されるダイヤにおいて、6月10日から一日あたり計144便が減回(減便)されました。

### 「間引きダイヤ」が元凶

川崎市交通局によると「運行本数の多い系統を優先的に選んだ」とのことです。例えば、路線の長い溝口駅南口から営業所などを結ぶ「溝18系統」

最大の理由は「間引き

（柿生線）では、一日に33便が減回。交通局は「運転手不足が原因」と説明しています。

これにより懸念されていた通り、帰宅時の19時台は大幅減回などによる「乗車待ち大行列」が発生してしまいました。

### 議会で改善を求めたが

私は6月25日の川崎市議会での一般質問にて、減便の影響が直撃する宮前区向丘地区についての問題をたどりました。

かつての市営地下鉄建設計画が廃止された際には、鷺ヶ峰営業所管内の路線バスサービスについて「さらなる充実と機能



満員のバス(上) 乗車待ちの大行列(下)



強化を図る」との約束が、当時の市長答弁によつて残されています。

今回の「間引き」による減便は、特に混雑する時間帯に影響が大きい。利用者への

交通局長からは「減便で生じた混雑については、可能な限り早く運行間隔などを調整するが、これまで作業日程から想定する『年内実施』が一つの目安になる」との回答。

早期のダイヤ改正に利用する市民の皆さんからの「声」も必要です。ぜひ交通局に要望を伝えるの機会を。4・200・3204

これは、この混雑状況をあと半年は放置しておくことになりません。市民生活路線の利便性が図られなくては、公共交通の存在意義

なお、市議会での質疑当日の動画は「川崎市議会インターネット中継2」で検索、ご覧いただけます。